

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	介護保険特別会計 介護給付費適正化事業	会計	介護保険	事業No.	224	施策順No.	35-033
		事業種別	政策・その他	予算科目	0予算事業		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	課等名	介護高齢課				
施策	35 高齢者福祉の推進	事業期間	開始	18	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	介護保険特別会計の保険給付費						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		保険給付費の当初予算額(千円)	7490258	7748783	8418822	8626596	9086540	
	意図	介護保険の給付が適正に行われることにより、サービス事業者のサービスが向上し高齢者が安心して暮らすことができる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	給付適正化事業によって返還された給付費の額(千円)	1170	1475	851	1000	451	1000	D
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	年度途中で、国保連合が保険者に替わって事業の大部分を実施することになり目標値より下回った。(国保連合に委託)また、指摘件数も年々減ってきている。今後も継続したい。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	介護保険サービスの給付データを確認することにより、不適正な給付(誤りを含む)である場合に、介護保険サービス事業所に返還手続きを行ってもらう。(平成21年度より一部のデータについて国保連合会が受託ける体制ができる予定)事前審査及び事後の訪問調査により住宅改修等の点検を行う。以上の指導を実施することにより、サービス事業者のサービス向上を図る。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	国民健康保険団体連合会から送付される給付データを確認することにより、不適正な給付(誤りを含む)である可能性が高い事例を抽出し、不適正であると確認できた場合には、介護保険サービス事業所に返還手続きを行ってもらう。住宅改修の内、写真等で判断できない改修、工事費の大きな改修、広範囲に亘る改修、疑義のある改修等を中心に事前・事後審査を実施。	1 確認するデータ件数 2 住宅改修実地指導件数	1 1,050件 2 10件
23年度実施計画	国民健康保険団体連合会から送付される給付データを確認することにより、不適正な給付(誤りを含む)である可能性が高い事例を抽出し、不適正であると確認できた場合には、介護保険サービス事業所に返還手続きを行ってもらう。住宅改修の内、写真等で判断できない改修、工事費の大きな改修、広範囲に亘る改修、疑義のある改修等を中心に事前・事後審査を実施。	1 確認するデータ件数 2 住宅改修実地指導件数	1 1,000件 2 10件

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		県支出金				
		起債				
		その他				
		一般財源				
		計(A)	0	0	0	
		正規職員所要時間				
		臨時職員等所要時間				
		人件費計(B)		0		
		トータルコスト A+B		0		

4 事業に対する市民や議会の意見

市民から、保険料の上昇に伴い「過剰な給付については抑制すべき」という意見が寄せられている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	支援を必要とする高齢者及びその世帯が、安心していきいき暮らせる。	施策の成果指標又はムトス指標	安心して暮らせている高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	適正化をはかることにより、不正な給付の抑制はもとより、サービス提供事業者として請求忘れのものも発見された。年々、誤りの件数が減ってきている。		
	後期に向けた課題	国保連合会が平成22年度途中から一部データについて実施となったが、未実施のデータについて実施する。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	国保連合会作成データの活用。		
	後期に向けた課題	継続して実施する。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	年々指摘箇所が減ってきているが、特に、介護サービス利用ないのにもかかわらず、計画費を請求する事例が減ってきている。ケアマネジャーが利用者の利用状況を把握してきていることに要因する。		
	後期に向けた課題	継続して実施する。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------